

分校だより

10・11月の行事

地域と共に歩む
大曲農業高等学校太田分校
(TEL) 0187(88)1311
(FAX) 0187(86)9033

●収穫をほとんど終了した太田分校の農場には、小ぶりの大根が数十本残されるばかりとなり、どことなく寂しく見えます。時折雪がちらつき、大台スキー場は白く雪化粧する日もあり、いよいよ本格的な冬が直ぐそこまで近づいてきたと感じます。

今年度も例年行われていた各種行事を可能な限り実施できるように努力してきました。紅葉祭や全校民謡発表会も工夫を凝らして実施できました。また、三年ぶりに関西方面への修学旅行(次号で紹介)を実施できたことは、生徒たちにも大切な思い出として記憶に残ることでしょう。いつもと変わらぬ学校生活を過ごしていることは、地域の方々と保護者の皆様の応援やご理解があったからだと思います。感謝いたします。



収穫祭 大地の恵みに感謝して

農場部主任 高田先生のお話

●みなさん、今年も全校生徒で頑張った田植えや全校除草、そして農業実習と、今年一年本当にご苦労様でした。そして、ありがとうございます。今年も10月1日に稲刈りが無事に終了して、今日の収穫祭を迎えることが出来ました。

思えば今年度は農場にとり、特別栽培米を作ることが出来るのか不安なスタートでした。太田分校には田植機械やコンバインといった作業機は無く、まして乾燥機や精米機といった、米作りに不可欠な作業機械がそろっていないのは皆さん承知の通りです。したがって、業者さんに助けてもらいながらお米作りを取り組んでいます。通常行われている、農業や化学肥料を使用しての栽培と違って、太田分校のお米は、農業や化学肥料を一切使用しない特別栽培米です。そのため、一連の作業には細心の注意を払いながら、他の米と混ぜられないようにしなければなりません。特別栽培米作りに協力してくれる業者さんが見つからないという困難の中、8月によく協力してくれる方が現れ、今年も特別栽培米の認可証の貼られたお米を販売することが出来ました。

完全無農薬、無化学肥料という米作りを取り組んでいる農家はほとんど目にすることはありません。まして、学校となれば県内で取り組んでいるところは太田分校だけだと思います。それだけ特別栽培米は困難で不効率な米作りなのです。私たちが太田分校は生徒、職員、みんなで取り組み、そして挑戦しているのです。したがって、私たちの作ったお米は、その一粒一粒が正に「奇跡の米」だと思えます。皆さんは、泣き言や愚痴を一言も発すること無く、黙々と真剣に取り組み姿勢が奇跡の米として皆さんの心に感動を与え、分校米のファンも徐々に増えてきているのだと思えます。

11月23日「勤労感謝の日」は国民の祝日に関する法律第二条で、「勤労をたつとび、生産を祝い、国民がたがい感謝しあう日」と定められています。勤労感謝の日になる前は、「新嘗祭(にいなめさい、しんじょうさいとも読みます)」があり、この新嘗祭が勤労感謝の日の由来となっています。新嘗祭は、天皇陛下がその年に初めてとれたお米などの穀物を神様にお供えし、神様とともに食べる儀式です。

農作物を育てて暮らしてきた昔の日本ではこの行事は非常に重要な意味がありました。穀物をはじめ、農作物の収穫を喜び、神様にお供えして感謝する、わかりやすく言うと「収穫祭」の日が、「勤労感謝の日」として制定され、施行されてから現在では意味が広くなり、食料に限らず、生産を祝い、働く人、働くことすべてを感謝する日になりました。

食事をするときの挨拶を「いただきます」と言います。魚、肉、野菜、生きていたものの命をいただくことに感謝し、それを育ててくれた人、料理してくれた人など、食に携わる人に感謝する気持ちを表す言葉です。今日は皆で頑張った新米を頂きます。あらためてこの言葉の意味を一人一人が確認しながら今日は新米を頂きましょう。



農業委員長 高橋侑大(3年)

●秋がしだいに深まりを見せ、田んぼからは稲穂もすっかり見えなくなり、朝夕の肌寒さも一層感じる今日この頃です。

さて、10月1日、本校の130周年記念式典が行われている日に、分校の稲刈りの方も依頼している業者さんが来て無事に終わりました。今日は収穫の喜びと自然への感謝の思いを全校生徒、職員で分かちあいたいと思います。

大曲太田分校の農業学習は、とことん無農薬にこだわり、人や自然にやさしい、自然農の実践というのがテーマです。その実践を通して、私たちは自然な環境でたくましく育っていく作物の姿に多くのことを学ぶことができました。

猛暑の中、ジャガイモやキャベツ、サトイモ、枝豆、ナスなど、暑さに負けず、じつと我慢して元気に育った姿を見せてくれました。作物の育つ大地は、我々人間にも生きるエネルギーを与えてくれることが少し分かるようになりました。

「我々人間は、いのちをいただき、その命によって生かされている」ということが、多くの仲間達と畑作業をして作物を収穫し、それらを共にいただくことで、普段見せる事のなかった心の内も開かれ、人の輪が自然に生みだされ、協力し合うようになる。生かされているからこそ生まれる人のつながりです。今日はこのような自然農の実践で生活の喜びを与えてくれた大地に感謝し、みんなと収穫の喜びを共にする収穫祭をここに開催します。

「大地の恵みに感謝して」

今日はお昼に、全校生徒で頑張った田植え競技会や全校除草、そして実習を通し愛情を注いで作り上げた新米を頂きます。まだ農場には収穫間近の野菜がありますが、今日は一つの区切りとして、収穫祭を分かち合いたいと思います。



分校レストラン

●10月25日(火)には、中里温泉にて分校レストランが開店されました。今シーズンの開店は一度限りでしたが、情報教養コース三年生7名が考案したお弁当は今年も大変好評でした。来店された方々の中には毎年楽しみにしている方も多く、分校レストランの開催が地域の方々にも知れ渡ってきていることだと感じています。まだまだコロナ禍での開店でお弁当という形式での提供ですが、分校の取組みを多くの方々にも知ってもらいたい機会だったと思います。



心をひとつに!! 紅葉祭・全校民謡発表会

●10月30日(土)、紅葉祭が開催されました。今年も話し合いを重ねてきた結果、生徒たちだけで行うことにしました。また、全校民謡発表会は保護者限定での参加とし、ものづくり講座の作品展と農産物販売に絞っての開催としました。地域の方々には太田分校の活躍や取組みをご紹介できなかったのは残念でしたが、来年は一般公開出来ることを願い、全校生徒が心を一つに頑張りました。



秋田県高等学校郷土芸能・日本音楽合同発表会

●11月13日(日)、秋田ふるさと村で行われた「秋田県高等学校郷土芸能・日本音楽合同発表会」に郷土芸能部が出場しました。この大会で優勝すると、来年の全国大会への出場が決まる大切な大会でした。昨年は、感染症拡大の懸念から、発表の様子を審査員のみが見て評価するというやり方でしたが、今年は三年ぶりに、審査員と一般客の前で発表することになり、とても緊張しての大会だったようです。部員たちは毎日遅くまで練習を積み、発表会に向けて頑張ってきた練習の成果を全て出し切ったようです。結果は、審査員特別賞を受賞し、素晴らしい発表だったとのことでした。郷土芸能部の皆さん、お疲れ様でした。



全校民謡発表会

●11月30日(水)、地域を支える人材育成の一環として、一年生6名が農業関連施設の一つである県立農業科学館へ出かけてきました。

午前には各展示室を見学。これからの農業について付加価値の高い農業や、地産地消、農業と観光の連携などの新しい動きについても知る良い機会でした。午後は科学館の先生から収穫庫を見せられていただきました。収穫庫には昔使われていた農具や生活用具、さらに貴重な写真や資料がたくさん保管されています。生徒たちは科学館の先生から説明を受けながら実際に手にとり、興味深く話を聞きながらメモを取っていました。

